

# 小池百合子都知事に聞く 石原元都知事の広げた風呂敷の畳み方

実は風呂敷の通だつた

小池都知事

百合子都知事にお願いしたのは、石原慎太郎元都知事が抜けてしまつた大風呂敷をいかに綺麗に畳むおつも

りか、そこをお聞きしたいというテー  
マであつた。

小池知事から冒頭飛び出したのは、知事ご自身が実は「風呂敷」の専門家であるというお話だつた。石原氏が抜けてしまつた風呂敷の畳み役として小池氏ほどの適任

者はいないというわけである。小池知事はまだ自民党の代議士であつた2009年に『ふるしきのココロ(英名= JAPANESE MODERN ECOLOGY STYLE FUROSHIKI)』という単行本を日本語・英語で上梓しており、そこには、コンパクトに持ち運ぶことができ、柔軟な形状、デザインの自由さといった風呂敷の使い勝手のよさが網羅されており、風呂敷の魅力が紹介されている。なるほど、その当時の東京都知事であつた石原慎太郎氏は着々と風呂敷を抜けつつあり、一方小池氏は風呂敷の魅力とエコを伝える本を世に送り出していたわけである。環境大臣であった時代には「風呂敷展」を開催し、日本の伝統的小道具である風呂敷のエコと文化の再認識役買つていたこともあり、2018年の11月には日仏外交樹立160周年ならび

にパリと東京が姉妹都市であることから、パリ市庁舎前広場等において風呂敷をテーマに江戸・東京の文化や芸術などの魅力を発信するアートイベントが開催されるという。小池都知事ご自身の主張として、風呂敷を綺麗に畳むことはもちろん、かつて関東大震災の頃に大風呂敷と云われた後藤新平氏に負けないくらいの大風呂敷を広げるのもお得意という訳である。

## オリンピックの 風呂敷の畳み方

さて、本題のオリンピックと築地問題であるが、まずはオリンピックについてお聞きした。

誘致の段階ではコンパクトさと低予算が「売り」であつたはずの2020東京オリンピック・パラリンピックであるが、当初謳われたおよ



## オリンピックの 風呂敷の畳み方

さて、本題のオリンピックと築地問題であるが、まずはオリンピックについてお聞きした。

誘致の段階ではコンパクトさと低予算が「売り」であつたはずの2020東京オリンピック・パラリンピックであるが、当初謳われたおよ

# 都知事に聞く

そ7340億円という総予算は、舛添都知事の時代の調査によれば3兆円を超えるという試算数値が示された。実に当初予算の4倍以上という法外な予算になつてしまっていたのである。

しかもオリンピック・パラリンピックの予算というのは、森喜朗氏率いる東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が資金不足に陥つてしまつた場合にはその分を東京都が補填し、さらに東京都が補填しきれない場合には、日本政府が最終的に補填するということになつてゐるのだ。つまり、組織委員会自体は予算の歯止めを持つておらず、あくまでいくらでも予算はつぎ込まれる。そしてその負担は最終的に国民の税金によつて賄われるという流れが出来上がつているのだ。

小池都知事によれば、オリンピック・パラリンピックの総予算はインタビュー時点で1兆3000億程度までは絞り込まれているというが、組織委員会の資金で賄われる筈もなき、いつたい東京都の負担額がどれほどになるのかは未だ不透明である。もつとも、ここに来て東京都の収入

源の一つである消費税の割り当てについては、自民・公明両党の決定した2018年度の税制改正大綱において1000億円以上税収が減る見込みとなつた訳で、当然ながら東京都の税収が減ることになれば、オリンピック・パラリンピックの予算における負担額も予算上削らざるを得ない状況となり、翻つて国の負担額が増加することになるのはやむを得ないことだらう。

さらに誘致当初から叫ばれてきた「レガシー」作りについても、使い捨てではない、未来に残せる遺産は良いが、それが莫大な維持費を継続的に計上する「負の遺産」となりかねない危惧もあるが、東京都の方針としては、施設自体をできる限り民間へ移管し、都の財政を使うのではなく、継続する費用については民間の知恵で引き継いで経営的手法で運営していくような方法を取つていくこという。また、施設自体も設計段階から常時数万人を収容する前提での設備づくりを行うのではなく、例えば冷暖房設備については、常に全体を対象に動かすのではなく、利用状況に応じて効率よく部分的に稼働さ



## 築地ブランドよ何処へ行く

せるといった方法を取り入れることで、特に光熱水費についてのランニングコストを大幅に低減させることができであるという。

現時点でおよそ1兆3000億とみどなつた税収で、当然ながら東京都の税収が減ることになれば、オリンピック・パラリンピックの総予算を有益なものと見るか浪費と見るかは、おそらく物理的なものだけではない遺産、つまりレガシーがどのように残されていくかにかかるといえよう。

かつて大風呂敷と言われた東京都知事、後藤新平氏が関東大震災後に残したレガシーのように、小池百ブル」とおっしゃる小池都知事の風呂敷の専門家としてのお手並み拝見（柔軟性）というテーマを「フレキシブル」と並んで語られてきたフレキシブル（柔軟性）というところである。

築地市場の豊洲への移転問題は、とにかく丸め込んだ風呂敷包みをポツンと放り投げた圖である。しかも

その風呂敷を開いてみたら、移転先の豊洲における汚染水の存在やら土壤汚染対策工事の不備やら、盛り土が予定されていた部分が空洞になっているやら、パンドラの箱よろしく次々と問題が噴出してきてしまったのである。

とりあえずいつたん移転を凍結した小池都知事であつたが、そこで再検証する間にも更なる問題が露見し、徒に時間ばかりが経過しているようを見える事態になってしまった。

ドの価値は残していくということになるのだという。

東京の一等地にいきなり出現する



築地市場のマグロの競り（東京都 生活文化局）

「築地」というスペースをいかに活用していくか。そのために有識者を集めたて様々な意見を集めていたのだ。現在の築地市場に隣接する本願寺や浜離宮の関係者も含め意見を集めながら、これまで培ってきた

「食」という要素に加えて、さらに観光的な観点からの捉え方も可能であるし、近くには大きな医療施設も多くあり、新たな東京の拠点としての「築地」ブランドを構築していくとお考えのようである。

願うことならば、これまでとかくないがしろにされてきた傾向の強い「築地」の河岸で働く人たちの「いき」で鰐背な心意気をきちんと受け止め、これまで培つてきた「築地」のスピリッツやソウルを受け継いで欲しいと思う。築地に限つた事ではないが、東京の下町に昔から暮らす人々は「江戸ことば」を話す。「ひ」が「し」になるとことから渋谷（しぶや）と日比谷（しひや）が混乱したりする。その「江戸ことば」では、風呂敷は「フルシリ」となる。この「江戸こ



銀座、新橋、京橋、日本橋を従える築地市場

結果的には元に戻つて豊洲への移転と相成つたわけであるが、築地の再整備という副題が加えられ、玉虫色的帰結をしているようにも見え、釈然としないという関係者の声も聞こえてくる。そこで、世界的にも名の売れた「築地＝TSUKIJI」ブランドを今後どのようにしていくおつもりなのか、そのアンダーグルから小池都知事にお話を伺つてみた。

都知事のご意見では、築地は食の基地であり拠点であり、地域との関連の中で愛されてきた場所である。その築地の市場としての中核的な機能は豊洲に移るが、銀座、新橋、京橋、日本橋などの地域から愛されてきたそのロケーションとしてのプラン



築地本願寺



近隣の浜離宮（東京都 生活文化局）



移転に向けて工事の進む豊洲新市場（東京都 生活文化局）

とば」を話す人たちが大切にしてきたのは数値や金額に換算することのできない「いき」である。

風呂敷（フルシキ）の専門家を自負する小池百合子東京都知事には、是非ともこの「いき」で鰯背な江戸っ子の精神にも目を向けていただき、その「江戸ことば」に耳を傾けていただけだと願う。

墓の世話をどうしていくのか、100歳以上の人口が10年後には20万人を超えるという高齢化社会の問題などなど、都民のひとりひとりにより身近なテーマを見据え、地道な都政運営をしていくことも大切であるとおっしゃる。都民生活にとってより身近なテーマをひとつひとつ着実に解決し、楽しい東京という街づくりを実現していく。

それが小池知事に託された大切な責務であるとのお考えである。なるほど、都

政にかかる時の小池都知事の本陣は「都民ファーストの会」であり、今回のイン

タビューを話す人たちが大切にしてきたのは数値や金額に換算することのできない「いき」である。

風呂敷（フルシキ）の専門家を自負する小池百合子東京都知事には、是非ともこの「いき」で鰯背な江戸っ子の精神にも目を向けていただき、その「江戸ことば」に耳を傾けていただけだと願う。

## 都民の生活がいちばん

間近に迫った2020東京オリンピック・パラリンピックも、築地市場の豊洲移転問題も大きなテーマであることは間違いないが、小池都

知事にとって大切なのは都民の日常生活であるという。子供を安心して預けることのできる社会、田舎のお

墓の世話をどうしていくのか、100歳以上の人口が10年後には20万人を超えるという高齢化社会の問題などなど、都民のひとりひとりにより身近なテーマを見据え、地道な都政運営をしていくことも大切であるとおっしゃる。都民生活にとってより身近なテーマをひとつひとつ着実に解決し、楽しい東京という街づくりを実現していく。

もちろん、その風呂敷のツケ払いは小池都知事が責任を持つって行う覚悟だという。ただひとつ

持つて行う覚悟だという。ただし一つ、石原氏が尖閣諸島の問題に火を点けてしまったことはとても大きな失敗であるという。触らなければ領土問題でもなんでもなかつたものを、わざわざ絶好のチャンスを与えてしまったという点では未来に対してとても大きな禍根を残すことになった

タビューも都庁の知事室ではなく、より身近に小池都知事に接することのできる「都民ファーストの会」の事務所であった。

最後に元石原慎太郎都知事について伺つたのだが、2020東京オリンピック・パラリンピック誘致も、築地市場の豊洲移転問題も、石原氏が



それこそ築地の魚のようにな粗上に乗せることがなければ現状の議論は無いわけだ、東京マラソンを始められたのと同じように、その功績は高く評価したいとお考えだという。

もちろん、その風呂敷のツケ払いは小池都知事が責任を持つて行う覚悟だという。ただし一つ、石原氏が尖閣諸島の問題に火を点けてしまつたことはとても大きな失敗であるといふ。触らなければ領土問題でもなんでもなかつたものを、わざわざ絶好のチャンスを与えてしまったという点では未来に対してとても大きな禍根を残すことになつた